

調査地とその周辺における弥生時代前期～中期の遺跡
「国土院発行2万5千分1地形図(奈良)を使用」

地区名 (遺跡名)	検出遺構 (土器様式)
1 二条地区	[前期] 方形周溝墓・溝・土坑 [中期] 竪穴建物・井戸 (Ⅲ)
2 菅原東地区 (菅原東遺跡)	[前期] 土坑 [中期] 溝
3 佐紀地区 (佐紀遺跡)	[中期] 流路 (Ⅲ)
4 二条大路地区	[前期] 竪穴建物・土坑 (井戸?)
5 二条大路南地区	[前期] 水田 [中期] 溝・包含層
6 大宮地区	[中期] 流路 (Ⅳ)
7 四条大路地区	[中期] 竪穴建物・方形周溝墓・土坑・流路
8 柏木地区 (柏木遺跡)	[中期] 方形周溝墓・土坑
9 大池地区 (大安寺西遺跡)	[前期] 土坑・溝 [中期] 土坑・溝・包含層 (Ⅱ～Ⅳ)
10 大森地区	[中期] 溝 (Ⅳ)
11 杏地区 (杏遺跡)	[前期] 土坑・流路 [中期] 土坑 (Ⅱ)、包含層 (Ⅳ)
12 東市地区 (東市遺跡)	[中期] 土坑
13 北之庄地区	[中期] 土坑・溝

【凡例】地区名は、秋山成人1995『奈良市の弥生遺跡—平城京下層遺構にみる弥生集落』『みずほ』第15号に拠る。

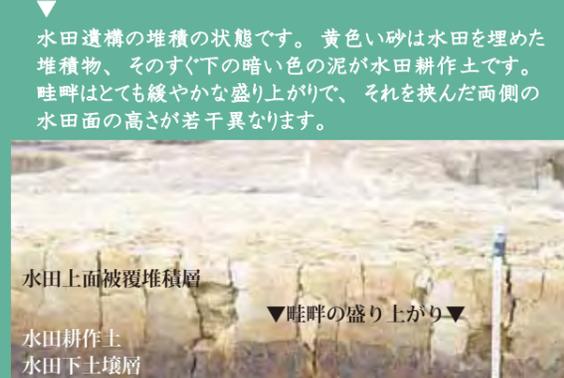
▶ 調査区の北辺には水田に接する流路があります。ここから田に水を引いたのだと考えられます。流木や木材などが出土しました。



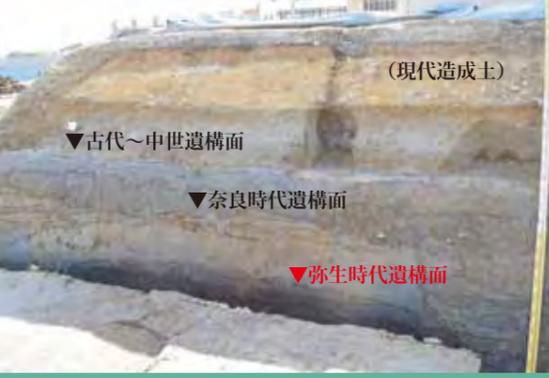
▼ 水田圃場は、低い畦畔で長方形に小さく区画されています。ひとつひとつが非常に小さいのが特徴です。湛水深は浅く、1～2cmといったところでしょうか。



▲ 畦畔には大畦畔と小畦畔があります。大畦畔は微地形の大きくなる場所に設けられており、ひとが歩けるほどの幅があります。



▼ 水田遺構の堆積の状態です。黄色い砂は水田を埋めた堆積物、そのすぐ下の暗い色の泥が水田耕作土です。畦畔はとても緩やかな盛り上がりで、それを挟んだ両側の水田面の高さが若干異なります。



▲ 地層は、上ほど新しく、下ほど古い時代のものです。奈良時代の遺構面の下に、弥生時代の水田遺構を発見しました。